

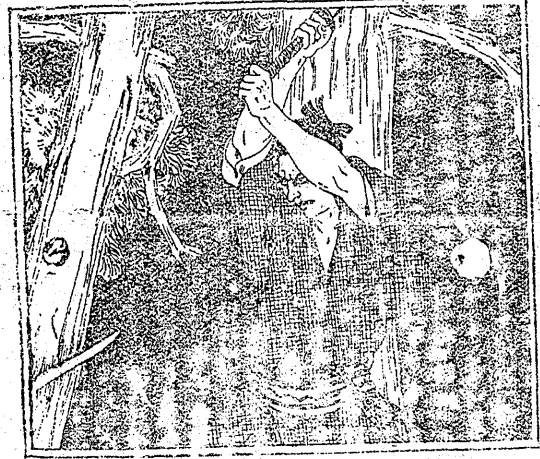
潮聲俳座 其ノ六 伊坂香雨翁喜壽記念俳句

潮聲俳座 其ノ六

伊坂香雨翁喜壽記念俳句 菊の香に幾代葉えて秋津洲 名月やありありこぼす竹の雨 老木とは見えぬ色香や臥龍梅 天高くみなる菊の香りかな 山茶花に忙しき雨の幾日かな 行き萎て香にたよりけり梅の宿 老松に濡れて色増す時雨かな 干竿に畏りけり雨蛙 蓮葉雨にぬき日なりけり 里祭り出盛ころの雷雨かな 常朝雨に夏菊の香のたよへり 移り香のなきか恨みや紅葉狩 霜に傲り雨にたゆたふ野菊かな 老松の色に出てにけり初時雨 喜壽の宴黄白菊香りけり 海鳴りの松ははさか時雨けり 菊の香や雨に燈す金屏風 満朝や静かに芽みゆる雨後の月 日の光り香に滴み込む茶の芽哉 海棠や名香薫る雨の扉裡 弓の腰伸すや神の香の冬至風呂 春秋を幾すや菊の香の高き 蜜月や伊香保に拜す初日の出 運ひらく音や香深き露の中 寒梅の鉢置替へる小春かな 色も香も流石に宇治の新茶かな 香濃き菊大輪の影かな 大利根を挿し仰く香取宮 月皎は枯野は時雨通りけり その香り萬國一や菊の花

難有や齡重ねて屠蘇の味 惠まれ喜壽祝ひけり菊の酒 接木して芽吹くも雨露の恵み哉 初冬雑詠 鳥田忠夫 〇音響器レコードにて乃木將軍の聲を聞く 今にして乃木將軍の聲きげばレコードながら神さ 神去り乃木將軍のこゑ聞きてあまり度しく涙おちけり レコードに残りし聲やけだしくも君が御魂は國護らるむ 滿洲の戦ひを思へばひたごころ乃木將軍に祈りもこそすれ 滿洲の兵の寒さはいかゝあらむ心痛めて吾は思へ

拈華微笑 位。萬丈の氣を 九百兩騙られた 吐く常盤線級 〇英氣を養つて 来るべき大任に 〇日本男児 温泉に上水道。 〇面目躍如矣 鬼に鐵棒と云つ 飛び込み自殺。 サア暮らしたくな つかたち 〇依然全國の第三 つて、九で矢でも射込まれたもので、正宗十哲のう るやうだ、長兵衛見ると大に兼光と云ふのがござい 川の三五郎が岩附時次郎に、此の兼光と大兼光と まく立てられ、今や一刀ゴツチャにするものがある 兩斷真ツツと云ふところが夫れは間違ひ、正宗は十 ぞございませ、長兵衛思は五歳にして御番假治と成つ ず大音に、長三五郎シツカた、一度でも御番假治にな り致せ、花井長兵衛斯付けないのは、是れは難刀假 参つたぞ、三五郎が返答せ治と申し、打つた刀は難刀 ぬうちに時々、時々となる、何しろ十五歳の御 次郎は驚いてタドロイ、番假治は珍らしい事で、左 元來剛漫不慢の奴でござい、程高名な正宗の弟子だから ますから、長兵衛の言葉に兼光と名が付けば皆正宗の



長兵衛 東京 斯波南更 (魚崎湖邊) (九七) 長兵衛御屋を歸すと待 兼たやうに、猫が猫をくわ えて引く張る猫の心は長兵 衛も知つてゐるからハハ何 か事が起つたのだらうと引 かる儘に行く目白臺へ 上つたスルト猫はバラ／＼ 駆け出す長兵衛其跡を慕つ て往くが、猫の飛び方が早 いの早くないのぢやないか おまけに驚くべきは猫の眼 中、如く光つたのは玉の眼だ 其致せ、ガリガリ備前大兼 光の異様に光る事と云ふは、 日はパツパツと光り、又鋭い 何ん、と云ふの鯉口を切る 是れは餘程大生じます。

大廉賣 十一月十七日迄 十月十四日開 營業所開設 倍舊の御引立相仰ぎ度奉懇願候 酒銘醇芳 白馬の雪營業所 平町二丁目一 辰の日本家 松本徳一 電話(二八五)本營業所 御贈答用として (マルトモ食 堂共通) 御利用願います 商品券 新年繪はがきクリスマスカード 博文館 常用日記 其他 かるた トランプ 例年の通り豊富に取揃へました 吉田眼科病院 平町紺屋町 中野洋品店 平町二丁目電五三番 中野十錢均賣場 十九日より 市價の昂騰に逆行する奉仕的 最安値で豊富な在庫品を破格提供いたします。 永久に残る最安値のレコードです。この際御利用御用命願います。 中野洋品店 平町二丁目電五三番

